

総研大生理科学専攻で学んでいます



プロの研究者を目指す大学院生活

博士後期課程 2 年 宮崎 裕理

私は、3 年次編入で総研大に入学しました。学部・修士課程は他大学の薬学部で過ごし、修士課程修了後、約 2 年半の間、製薬会社で研究職として勤務していました。製薬会社での研

究業務の中で強く感じたことは「基盤となる基礎研究の充実こそが新たな薬を生む第一歩に繋がる」ということです。

そこで、私は真の創薬につながる基礎研究を目指し、総研大（生理研）に進学しました。

研究のプロに囲まれて過ごす学生生活はとても貴重

生理研に入って一番に感じたことは、研究に没頭できる環境が整っていることです。これが、大学院大学であり研究所である生理研の最大の特長だと思います。最新の実験設備がそろっており、やりたい実験のほとんどが可能です。研究所内での共同研究も盛んで、必要な実験はその分野の専門の研究者から教わることもできます。私の場合、入学前にやっていた研究領域と現在の研究は異なりますが、先生方の丁寧なご指導により、基礎的な実験技術や知識を身につけることができました。また、日々の実験やディスカッションだけでなく、研究所内外での研究発表や他分野の研究者の方との交流の機会が多いことも自分の研究テーマのさらなる理解や問題点の発見の後押しをしてくれます。セミナーや講義では、国内外の第一線で活躍している研究者の方の発表・講演を日常的に聴講できます。これだけ気軽に貴重な発表を聴くことができる環境は、大変珍しいと思います。何より、生理研に在籍しているのは、教授から学生まで、研究のプロもしくはプロを目指す人達です。このような研究者に囲まれて過ごす学生生活は、同じくプロの研究者を目指す私にとって、とても貴重な時間だと感じて

います。また、研究に特化した教育体制も本学の魅力です。普段の講義では、各科目の概論から最新の研究まで幅広い内容の授業を受けることができます。個人的には、英語の授業がとても気に入っています。週一回の授業では、外国人講師による英会話・英語のプレゼンテーションの授業を、レベル別のクラスで受けられます。また、研究所には留学生も多く、彼らとの日常的な交流がとても楽しく、英語学習のモチベーションになっています。もちろん、日々の研究生生活は決して派手ではなく、研究が思うように進まないこともあります。それでも、研究テーマについて深く考え、試行錯誤を繰り返しながら研究に向き合う生理研での学生生活は、今後も私の研究者としての財産になると信じています。

最後に、大学院に進学し過ごす時間は、とても重要でかけがえのないものだと思います。そこで、生理研への進学に少しでも興味を持った皆さん、まずは、気軽に生理研の先生や先輩に連絡をしてみてください。きっと、どなたも研究テーマや研究生生活、その他の気になることについて、真摯に話をしてくれると思います。皆さんの大学院生活が実りあるものになることを祈っています。